

ウクライナ リハビリ研修団の来県



「創造的復興」の理念を活かして戦禍にさらされるウクライナを支援するため、日本政府やJICAとともに、ウクライナからの研修団を受け入れ、^{せきずい}脊髄損傷のリハビリテーションに関する研修を実施

● 研修期間 令和7年2月3日（月）～2月28日（金）

滞在期間：令和7年1月30日（木）～3月1日（土）

研修初日の2月3日（月）に県庁を訪問予定

● 研修場所 兵庫県立総合リハビリテーションセンター(神戸市西区)



兵庫県立総合リハビリテーションセンター

● 来日研修団メンバー（3名）

医師：1名、理学療法士（PT）：1名、作業療法士（OT）：1名

（所属：イヴァーノフランクィウシク州臨床病院）

※本県とイヴァーノフランクィウシク州は創造的復興の理念に基づく復興支援に関する覚書を締結(R5.8)

● 研修概要

日本有数の知見を有する総合リハビリテーションセンターの医師、理学療法士、作業療法士が講師となり、脊髄損傷の臨床現場について、実技を交えて研修



9月の視察団の様子

(参考) ひょうごウクライナ支援プロジェクト

兵庫県では、本県への避難民に対する生活支援や、阪神・淡路大震災からの復興過程で掲げた「創造的復興」の理念を活かしたウクライナ支援を、ふるさとひょうご寄附金を活用して実施中

これまでの寄附金額

6, 360件 121, 665千円 (R6.12月末時点)

寄附金の主な用途

- 戦禍で負傷した方々のリハビリテーションや、こころのケア分野の人材育成研修
- ウクライナから本県に避難してきた方々の生活支援など、ニーズに合わせた支援を実施



詳しくは

ひょうごウクライナ支援プロジェクト 

隣の隣の国

ウクライナに、

僕らができること。

初めてウクライナを訪れたのは、高3の冬。
ソ連崩壊の見学ツアーの最終地が、
ウクライナの首都・キーウだった。
美しい大聖堂や、陽気な人々に魅了された。
僕はそのとき、大袈裟に言えば、
ウクライナに恋をしたのかもしれない。
そのウクライナが、まさかこんな戦禍に
さらされる日が来るなんて思いもしなかった。
ウクライナは遠い国に思えるけれど、
実はロシアを挟んで「隣の隣の国」だ。
そう聞くと、身近に感じられないだろうか。
いま、僕らができることは何か。
戦争が終息し、平和な日常が戻ってきたら、
ぜひウクライナを訪れてみてほしい。
美しい風景と、美味しい食べものと、
明るく陽気な人々の笑顔にあふれた、
とてもステキな国なんだ。



岡部 芳彦 Yoshihiko Okabe

兵庫県生まれ。神戸学院大学経済学部教授、同国際交流センター所長。政治・経済・文化などのウクライナ研究、日本・ウクライナ交流史が専門。ウクライナ国立農業科学アカデミー初の外国人会員、日本人とウクライナ人の交流史に関する著書を続けて刊行しているほか、ウクライナの詩集や民話の日本語への翻訳も行っている。ウクライナ内閣名誉章、ウクライナ最高会議名誉章、ウクライナ大統領府所属国家行政アカデミー名誉教授などを授与される。



ひょうご ウクライナ支援 プロジェクト

for UKRAINE from HYOGO



詳しくは

ひょうごウクライナ支援プロジェクト

